

かめだより

発行：医療法人鉄蕉会 亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室
発行責任者：亀田俊明 編集責任者：蔵本浩一

〒296-8602 千葉県鴨川市東町929

TEL：04-7099-1261(内線7156)



contents

- P2 … 地域医療を担う専門性を活かした質の高い医療・介護の紹介
(01：遺伝カウンセラーの活動紹介)
トピックス / 勉強会・研修会開催のご案内
- P3 … 人間ドックの新しい運動器オプションの紹介
(寝たきりにならないために)
- P4 … 地域医療機関さまより
- P5 … 当院診療科より
- P6 … 健康管理支援室のご紹介
- P7 … 当院職員の腰痛対策
- P8 … スタッフひろば
マイブーム

① 遺伝カウンセラーの活動紹介

認定遺伝カウンセラー® 小堀 華菜

「親子で同じ病気になったから遺伝なのだろうか」「自分の病気が子どもたちへ遺伝するのか不安」「高齢出産だと赤ちゃんが特定の病気である可能性が上がると聞いたのだけど」…こんな相談を患者さまやそのご家族から受けたことはありませんか？

私たち遺伝カウンセラーは、遺伝性疾患や遺伝情報（遺伝子や染色体など）に関わる疾患に関する悩みをもつ方を支援する専門職です。医師と連携し、遺伝に関するカウンセリング（以下、遺伝カウンセリング）を実施しています。

遺伝カウンセリングでは、相談者の既往歴や家族歴、社会的状況についてお聞きし、それに基づいて遺伝性の可能性がどれくらいあるのか、疾患の概要、遺伝形式、遺伝子検査の選択肢や検査後の対応、社会資源などについてお伝えします。その上で、相談者の抱える不安や疑問について一緒に考え、ご自身で納得のできる選択ができるよう支援します。遺伝子検査を行った場合には、結果やその評価を噛み砕いて説明するのも遺伝カウンセラーの業務のひとつです。

当院での主な対応領域は腫瘍と周産期です。それぞれ、以下のような疾患に関する相談が多く見られます。

もちろん、遺伝性疾患はあらゆる診療科に関わってきますので、その他領域に関してもご相談頂けましたら対応致します。

① 腫瘍領域 ()内はそれぞれなりやすい癌の種類

- ・ 遺伝性乳癌卵巣癌症候群
(乳癌、卵巣癌、前立腺癌、膵臓癌)
- ・ Lynch 症候群
(大腸癌、子宮体癌、胃癌、卵巣癌など)

- ・ Li-fraumeni 症候群
(骨肉腫、乳癌、急性白血病、脳腫瘍、副腎皮質腫瘍など)

② 周産期

- ・ 出生前検査
(ダウン症候群などを含む染色体疾患)
- ・ 遺伝情報の関わる習慣流産や男性不妊
- ・ 家系内の疾患に関する妊娠や出産の相談

例えば腫瘍領域では、遺伝子検査によって遺伝性腫瘍(遺伝的ながんになりやすい体質のこと)と診断された場合、その後の検診の選択や予防的手術に役立てたり、血縁者へ情報を共有して患者さまだけでなく家系全体の早期発見・予防に繋げたりできる可能性があります。

しかし一方で、生涯変化することのない体質について知ることが患者さまの負担になる可能性もありますので、遺伝カウンセリングにて検査の目的やその人にとってのメリット・デメリットについてきちんと話しあうことが重要です。

遺伝カウンセリングおよび遺伝子検査は、一部を除き自費診療です。疾患によりますので詳細についてはお問合せ下さい。

また、遺伝子関連情報の管理や遺伝学的検査の結果解釈、遺伝にまつわる臨床研究支援なども実施しておりますので、お役に立てることがありましたらぜひお声掛け下さい。

臨床遺伝科 お問合せフォーム



トピックス 勉強会・研修会開催のご案内 ※参加ご希望の方はそれぞれの締切までにお申し込みください。

【2022年度開催予定】

1. がん看護コミュニケーションコース研修

日時：1日目…2022年6月25日(土) 8時～17時(終了)
2日目…2022年7月9日(土) 8時～17時
会場：亀田総合病院 B棟7階 看護研修室
対象：がん看護経験年数2年目以上で
がん看護に興味のある看護師
※アンケートに協力できる方に限る

2. がん看護基礎コース研修

日時：1日目…2022年11月26日(土) 8時～17時
2日目…2022年12月3日(土) 8時～17時
会場：亀田総合病院 B棟7階 看護研修室
対象：がん看護に興味のある看護師、もしくは
多職種(経験年数1年目でも可)
※アンケートに協力できる方に限る

今回ご案内しております研修会ですが、COVID-19の感染状況により、延期・中止の可能性もございます。ご了承くださいませようお願いいたします。

人間ドックの新しい運動器オプションの紹介

寝たきりにならないために

健康寿命を伸ばすために～筋肉・歩行力検査のすすめ

スポーツ医学科 / 健康管理科 蔵本 理枝子

筋肉・歩行力検査が 人間ドックのオプションに加わります！

1. 国民の自覚症状のトップが腰痛・肩こり

多くの方が、定期的な健康診断や人間ドック、内科受診等で内臓の状態を把握している一方で、運動器(関節、筋肉、骨、神経など)の状態を把握されている方はどれくらいいるでしょうか。

病气やけがなどで自覚症状がある人を対象にした国民生活基礎調査によると^(※1)、なんと自覚症状の第1位は「腰痛」、第2位は「肩こり」でした。内科の症状で有名な「頭痛」や「腹痛」を押さえて、運動器による症状が上位を独占しているというのがポイントです。これら「運動器による症状」は、一般的な定期健診や人間ドックでは引っかけからず、内科を受診しても検査の対象になりにくい症状です。そして驚くべきことに、要支援・要介護になった理由の第1位も、運動器の障害ということが分かっています^(※2)。内科的な健診と同様に、症状が出る前からご自分の運動器の状態を知って、健康を保つことが重要です。

2. 健康寿命とロコモティブシンドローム

健康寿命とは、健康上の問題がなく介護を必要としない状態で、日常生活を過ごせる期間のことをいいます。仮に平均寿命(2020年:男性81.64歳、女性87.74歳)が伸びても、健康寿命(2016年:男性72.14歳、女性74.79歳)が短ければ、健康上の問題で日常生活が制限されたり、何らかの助けが必要になり、さらに悪化すれば介護が必要になる可能性が高まります。もしあなたがそれを避けたいければ、運動器の健康を維持することが重要になります。

そこで、最近話題になっているのが「ロコモティブシンドローム(=ロコモ)」です。ロコモとは、運動器のいずれかあるいは複数に障害が起こり、立ったり歩いたりするための身体能力(移動機能)が低下した状態のことをいいます。実は、日本ではすでに4,700万人が“ロコモ予備軍”と考えられています。しかし、これらの方々の多くは自覚症状がない(日常生活レベルでは問題がない)ため、

自分では“ロコモ予備軍”であることに気づいていません。この、自覚することが難しい段階で、ロコモの進行を予防することこそが健康寿命を延ばすことにつながります。

ロコモを詳しく知るには、日本整形外科学会のロコモONLINE(<http://locomo-joa.jp>)がお勧めです。自分のロコモ度を知るためのテスト方法、元気な足腰でいるためのトレーニングや簡単な体操、骨や筋肉に効く栄養の取り方などが具体的に紹介されています。ただ、自分でロコモ度テストを受けようと思っても道具の用意などが必要で、難しいかもしれません。そんな方のためにもっと簡単に、そしてより詳細に運動器の状態を調べる方法があります。それが次に紹介する人間ドックの検査です。

3. 筋肉・歩行力検査のすすめ

亀田クリニックの健康管理センターでは、この夏より運動器の健康状態を知ることを目的として、人間ドックのオプション検査で「筋肉・歩行力検査」を開始します。これは体組成(筋肉量や体脂肪など)、脚力、歩行能力、バランスについて7項目の簡単な運動テストと25の質問で構成されています。たった40分の検査で、ご自分の歩行年齢、ロコモ、そしてサルコペニア(加齢による筋肉量の減少および筋力低下のこと)かどうかわかります。歩行年齢が高くなると歩幅が狭くなり、つまずいたり、転びやすくなったりします。ペースメーカーなどが体内に挿入されているために体組成が測れない場合がありますが、体力に自信がない方でも受けられる内容です。これにより現在のご自分の運動器の状態を簡易的に知り、その結果に見合ったあなただけの簡単な運動メニューを知ることができません。実年齢を若返らせることはできませんが、運動を実践することでこの歩行年齢は若返ります。ぜひ、この夏に新しい運動器検診を受けてみてください。



※1 厚生労働省令和元年国民生活基礎調査

※2 内閣府による平成30年版高齢社会白書



地域医療機関さまより



わがいいん
和穎医院

院長 和穎房代



房総半島の最南端に位置する白浜町で、和穎医院は約80年前に開設されました。第二次世界大戦の最中、白浜の医師が軍医として出征したため、無医地区となり、当時東京で病院勤務していた義母・和穎美和子が白浜出身の夫の縁で懇願され、この地で診療所を始めました。地元の人々は大変な働き者で、夏は海女で海に潜り、一年中野菜や花づくりにも精を出す生活です。その人々を医師として親身に接し、耳鼻科医であったにもかかわらず、勉強しながら一般内科まで日々診療に従事しました。

50年以上経ち私が院長となり、それまでの住民重視の方針を踏襲する一方、長く大学病院で呼吸器専門外来を担当した経験を活かして診療しています。気管支喘息・COPD(肺気腫)の患者さんだけでなく、高血圧、糖尿病、脂質異常症といった生活習慣病の患者さんが多く、食事・運動などで効果があるように一緒に考えています。



患者さんは今もよく働き、よく食べる人が多くて、食事療法はかなり大変です。

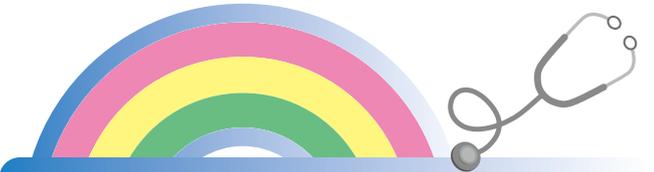
白浜は50年ほど前には8,000人近くの人口でしたが、最近では約4,500人と減少し、高齢化率はおよそ30年前27%、10年前41%、去年は52.5%と激増しています。当院の患者さんは高齢者が約7割、85歳以上の方も15%います。高齢であっても、畑に行ったり、海に潜って貝を採ったりと活躍している方々です。このような頼もしい方々に接していると、いろいろと生き方を学ばせてもらうことも多くあります。無論入院したり、施設に入ったりと離れていく人もいますが、高齢者にも寄り添い、可能な限り自宅で暮らせるように、医療だけでなく行政や介護と連絡をとるよう、スタッフ共々努めています。

白浜には観音崎灯台に次いで日本で2番目に古い野島崎灯台があり、“朝日も夕陽も見える岬”からの眺めもよく、訪れる観光客も多いため、時に旅行客の患者さんが来ます。また都会での仕事を終えて老後の生活の場を求めて、転居してくる方もいます。それでも今後さらに人口は減り、私共団塊の世代が絶えた後、白浜はどうかと不安はあります。しかし自分が高齢者になった分高齢者の思いが一層理解できるようになり、今まで以上に在宅医療や看取りなどで、役に立つこともまだあると思っています。

小さな町の小さな診療所ですが、後を継いでくださる方が現れることを期待して、これを書かせていただきました。当医院は、家事や育児との両立が比較的容易な良い環境だと思います。少しでも関心がありましたら、是非ご連絡くださるようお願いいたします。

最後に亀田総合病院の先生方、地域医療支援部とくに連携室の皆様には常日頃情報提供の依頼や、患者さんの受け入れでお骨折りいただき、ありがとうございます。心から御礼申し上げます。





当院診療科より

泌尿器科

泌尿器科部長

内視鏡下手術センター長 安倍 弘和



皆様には日頃より大変お世話になりありがとうございます。当科の大きな特徴はとにかく専門性の高い高度な医療技術が提供できることだと思います。そのため安房地域はもちろんのこと、全国から当科を調べて受診される方もいらっしゃいます。低侵襲手術を心がけ、ERAS(Enhanced recovery after surgery)プロトコールによる周術期管理にて最短の入院期間で治療が提供できています。腹腔鏡下手術は2014年よりほぼすべての術式に導入し、前立腺がん、膀胱がん、腎がん、骨盤臓器脱などとても良い治療成績であると思います。2014年に安倍が亀田総合病院に赴任し数年はスタッフ不足で大変な時期もありましたが、現在は15名と有数の泌尿器科となりました。慈恵医科大学、大阪医科薬科大学そして亀田総合病院専門研修プログラムの3つのルートから当院で働きたいという仲間恵まれています。女性泌尿器科(骨盤臓器脱や尿失禁治療)を学びたいと

女性医師は6名在籍しています。おそらく日本一女性医師が多い医局だと思います。「こども園OURS」を利用し、子育てと両立し頼もしい存在であります。このため、亀田京橋クリニック、亀田総合病院附属幕張クリニック、安房地域医療センターで外来を開設するに至りました。

難しい悪性腫瘍も積極的に治療を心がけるようになりました。腫瘍外科と共に仕事をするようになり、開腹手術、腸管の取り扱いや、術後管理などとても勉強になります。主に肉腫の再発手術に参加しています。週2,3件は腫瘍外科手術(子宮肉腫、脂肪肉腫などの非常に珍しい疾患)について学ぶことができるのは亀田総合病院ならではの気がします。若い患者さまが多く、寄り添い最後まであきらめない姿勢には頭が下がります。

医原性尿管損傷の治療などをより積極的に治療できるようになりました。泌尿器科術後ばかりでなく、婦人科、外科手術後の医原性尿路損傷の治療で当院を紹介される方が増えています。今後も医原性尿路損傷の診断、治療などの啓蒙活動に継続して力を注ぎたいと考えています。

泌尿器悪性腫瘍の浸潤、転移症例は腫瘍内科と連携しています。腫瘍内科でより患者さまにあった治療薬の選択や投与量、投与間隔などきめ細かく治療ができることで、根治的手術に結び付く方も増えています。泌尿器科医が化学療法、手術を行っている病院が多い中、手術に集中して鍛錬し、医療提供ができることは理想でありました。年間1,600件を超える手術件数は日本でもトップクラスの手術件数となりました。

また、DaVinci Xiの導入により提供できる手術の幅が広がりました。DaVinciは万能と思われがちですが、良い点も悪い点もあり医療者、患者ともに選択肢を共有し治療戦略を立てることは非常に有益なことと考えられます。

振り返ると、とても小さなことの積み重ねが今に生きていると思います。ちょっとしたこと(手間暇やがまん、やらないよりやった方がましなこと)、こだわらなくても良さそうなことも悩み、迷走し、取捨選択を繰り返し今に至ります。今後も「小さな小さな良いこと」を積み重ね、当科の医療が笑顔に繋がるよう心がけていきたいと考えています。今後とも何卒よろしく願い申し上げます。

メディカルレポート

健康管理支援室のご紹介

亀田クリニック看護室 健康管理支援室師長 鶴田 光代

健康管理支援室は糖尿病支援に関する『糖尿病支援外来』『フットケア』、禁煙に関する『禁煙支援外来』、健康管理センターでは『人間ドック』『健診』の方を対象とした看護師の総称したチームです。健康管理センターは2016年人間ドック学会認定を受け、COVID-19感染拡大により延期されていた更新審査が5月にありました。

事務員・超音波検査室 内視鏡検査室・画像センター・看護師など多職種が協力して現在では感染防止を強化しながら運営しています。

ドックや健診受診者数は年間約30,000人です。受診者の多くは南房総を中心に県内からの方ですが、他県からお越し頂いています。年齢層は20〜90歳代と幅が広く、大半が40歳〜80歳で、60歳代が最も多くなっています。2年前までは海外VIP受入で200人ほどが来院していました。

看護師は糖尿病認定看護師、糖尿病療養指導士、禁煙認定専門看護師、人間ドック健診情報管理指導士、健診食生活改善指導士、人間ドックアドバイザー養成研修などの資格をもち健康増進、疾病予防、病気の早期発見や治療に繋がるように活動しています。

現在所属している看護師は15名で、半数以上は非常勤者で、平均年齢49.5歳と非常に高いです。各自が病棟や他施設での経験を活かし、短時間でも受診者に寄り添えるように関わり、接遇には力を入れ、笑顔、立ち居振る舞い、良好な人間関係やコミュニケーションスキル向上のため、センター内で行われる接遇勉強会は全員必須としています。

皆様には貴重な休日にドックを受診していただいていますので、リラックスして安心・安全に検査を受けていただけるよう心がけています。

その他にも、住民の施設健診の受け入れや市内の保育園から高校で行われる学校健診などに出張で対応しています。亀田医療技術専門学校、亀田医療大学、職員集団インフルエンザ、コロナワクチン予防接種はもちろん亀田クリニックで行われている住民コロナワクチン予防接種にも関わっています。

また、2021年11月にオープンしたパークウエルステイト鴨川のご入居者向けにリハビリテーション部門と協力して、主に運動機能を評価するエイジングゲートアコースを構築し、4月から受け入れも開始しました。

ドックでは近年乳腺Tomo検査・冠動脈CT・運動機能を評価するスポーツドックを開始し、今年度からは新しいオプション検査として脾臓ドックを開始します。2023年度から上部内視鏡検査に経鼻内視鏡を導入

するために試験運用を開始しています。また、運動器機能を評価するロコモ健診のバージョンアップのため、体脂肪だけでなく筋肉量や体型、ミネラルなど体組成が測れる機材インボディを先日新規導入しました。

皆様は自家用車をお持ちで運転されている方が多いと思います。車両は定期的に点検やメンテナンスが必ずです。怠ると燃費が悪くなり、重大な事故につながることもあります。また、運転の急発進、急ハンドル、急ブレーキなど運転の習性も燃費に影響を及ぼすこともあります。

人も同じで、定期的に健康診断を受けていただくことが健康の第一歩です。定期的に健康診断を受け、異常があれば早期に発見し治療につなげる。結果説明では医師から直接アドバイスを聞けます。健康診断を機にご自身の生活習慣を見直し、改善できるかなど一緒に考えていけたらと思います。

現代社会はストレスが多く、体にも負担がかかっています。予防医学に取り組み、人生100年時代に皆様アクティブに活動し、心身共に健康な状態で過ごしていけるように、私達も活動を続けていきます。



当院職員の腰痛対策

リハビリテーション室主任 石川修平

コロナ下において、オンラインでのデスクワークが増え、移動が少なくなり、運動不足となることで、身体の不調を訴える方も増えてきています。その中で腰痛を発症される方も少なくありません。腰痛は、世界的にも問題となっており、当方でも腰痛対策の指針が出され、各職場での腰痛予防を進めることが図られています。腰痛は、我々の医療現場でもスタッフの健康を脅かしています。患者さまへ質の高い医療を提供するためには、スタッフの健康をいかに保つかということも大事な視点となります。

当院では、リハビリテーション室スタッフと職員厚生課が、産業医の助言を受けながら、2017年より職員に対しての腰痛予防対策を実施しています。テーマは「継続性」です。具体的な対策は、以下の3つです。

1. ポピュレーションアプローチとして、腰痛予防体操の普及
2. 新人教育や腰痛対策講演の実施
3. 職員健康診断での腰痛問診導入と集団分析実施後、職場介入

腰痛予防体操は、腰を伸ばす「これだけ体操」と、大腿裏にあるハムストリングスという筋のストレッチを指導しています。全部で3分の体操です。「これだけ体操」に関しては、たった3秒で行えるため、忙しい業務の合間でも行えます。テーマに「継続性」があるように、体操を習慣化するためにも、部署全体で朝礼時やミーティング時など、声掛けをする人と、時間・場所を決めて体操を行うようにしています。今では多くの部署が、ストップウォッチ等で時間を測りながら主体的に取り組めるようになりました。同時に、体操ポスターも職員が目につく場所に掲示し(ラウンジ・更衣室・食堂・モニター画面など)、体操の周知も図っています。

腰痛対策講演は、腰痛予防のための知識や、腰痛予防体操の方法指導を行っており、腰痛による業務への支障を抱えるスタッフの多い部署から順次実施しています。実際に、「こんな場面は腰に

悪いの?」「肩や膝も痛くて困っていた。何か対策はない?」などの相談も受け、その場でフィードバックするようにしています。

職員健康診断においては腰痛問診表を導入し、毎年全部署の腰痛状況を把握しています。その結果を活用し、腰痛巡視という形で各部署の労働環境や職員の業務状況を確認しています。その際、部署毎の特性に合わせた腰痛予防のポイントもお伝えしています。これらの一連の対策を始めてから、腰痛問診データでは、腰痛による業務への支障は徐々に減少しており、欠勤・休職率も減少してきていることがわかっています。

当院での取り組みを地域の医療機関や一般の皆様にも還元していきたいと考えていますので、もし体操の指導や、腰痛対策についての講演に関して、ご希望がありましたら、お気軽にご連絡いただければ幸いです。

たった3秒で!!
腰痛改善 & 予防

さあ今、この場所ではじめましょう!

これだけ体操

腰を反らすだけ! ポイントは⑥つ!



ふっ
息を吐き
3カウント!

- ① 足は肩幅より少し広げる
- ② 膝をのぼす
- ③ あごは軽く引く
- ④ 息を吐きながら
- ⑤ 骨盤をしっかり前に押し込んで3秒反らす!
- ⑥

痛くなく、気持ちが良い程度で行いましょう。
脚に走る痛みがあれば中止しましょう。

これだけ体操 HP



これだけ体操 動画



太もも裏のストレッチ



- ① 椅子に浅く座る
- ② 片脚を伸ばして、踵を地面に着ける
- ③ 伸ばした脚のつま先は少し上に向けておく
- ④ 背筋を伸ばしたまま、少し前に傾ける
- ⑤ 伸ばした脚の太もも裏が少し突っ張る程度で、30秒×2回行う

※痛くなくて、伸びて気持ちが良い位の程度で行いましょう。

スタッフ ひろば

地域医療連携室
メンバーから

今回のご紹介内容

- ・氏名
- ①部署 / 職種
- ②自分を色に例えると…何色？
- ③今年の七夕の願いは？



蔵本 浩一

- ①診療部 疼痛・緩和ケア科 医師
- ②玉虫色
- ③まだ決められません



大川 薫

- ①診療部 在宅診療科、地域医療支援部 医師
- ②パステルカラー
- ③スワローズ2連覇と戦争のない未来



草薙 洋

- ①診療部 消化器外科 医師
- ②水色
- ③コロナ終息



宮地 康僚

- ①診療部 腫瘍内科 医師
- ②緑と臍脂(エンジ)
- ③元気であること



渡邊 八重子

- ①看護管理部 看護師
- ②空色
- ③コロナが終息し、安心して海外旅行が楽しめますように



影山 ユウ子

- ①地域医療連携室 看護師
- ②レッドオーシャン (We are T)
- ③世界平和 戦争が早く終わりますように!!



川上 由美

- ①看護管理部 看護師
- ②水色
- ③みんなが元気に過ごせますように



打野 弘子

- ①総合相談室 看護師
- ②青
- ③健康



吉野 有美子

- ①総合相談室 看護師
- ②虹色
- ③平凡な暮らしが続きますように



安室 修

- ①薬剤部 薬剤師
- ②緑
- ③天の川がみれますように



鎌田 喜子

- ①総合相談室 MSW
- ②オレンジ (びわ色)
- ③この世界の不条理な攻撃がなくなりますように



児玉 照光

- ①総合相談室 MSW
- ②薄さいろ
- ③今年も健康でありますように



長江 弘子

- ①亀田医療大学 教授
- ②オレンジ色
- ③まずは3キロ減量して少しでも腰痛から解放されますように



中村 雅代

- ①地域医療連携室 事務
- ②桃色
- ③コロナが終息し、安心した生活が送れますように



林 裕子

- ①地域医療連携室 事務
- ②ブルー
- ③戦争が早く終わりますように



黒川 亜純

- ①地域医療連携室 事務
- ②縹色
- ③5億当たりますように



伊藤 博章

- ①地域医療連携室 事務
- ②黒
- ③心身の健康、家族の健康



生稲 秋穂

- ①地域医療連携室 事務
- ②水色
- ③コロナが終息すること



大橋 洋子

- ①地域医療連携室 事務
- ②白
- ③皆、楽しく健康に暮らせますように!

亀田総合病院スタッフの マイブーム

「今の流行りに乗っかって」

コロナ禍が続いて2年強。毎年の楽しみだった旅行も舞台観劇も封じられてしまった。しかし、このご時世は配信が主流になりつつある。片田舎のぜいごっぴにはありがたい。

そうして最近色々な動画を見るようになって気付いたが、私は「へえ〜!」となるのが好きらしい。知らない分野に触れたとき、世の中にはまだまだ知らないことが沢山あるのだとわくわくする。それに、そういう教養があると視野が広がって、より世の中のことが面白く見える。そういうわけで、最近は色んな動画チャンネルを見るのがマイブームだ。

今のイチオシが『山田五郎 オトナの教養講座』である。テレビでも馴染みの評論家だが、ここでは主に西洋美術についての解説をしてくれる。美術をなんとなく知っている若い番組スタッフの美術作品に対する疑問に答え、解説してくれる方式なのだが、山田五郎の語り口がざっくりとで気持ちがよい。例えばとある作品に対して「この作品、気持ち悪いって感じるんですけど、それってなん

ですか?」という疑問を投げかける。正直、この質問もざっくりとでいいと思うので好きなポイントでもある。すると「芸術作品に気持ち悪いとはなんだ!」ではなく、「思うだろ!? 当然なんだよ!」「作者の趣味が気持ち悪いからだよ!」と笑いながら返ってくるのだ。もうこれですっかりファンになってしまった。

恥ずかしながら、私は美術関係はとんと疎い。ゴッホとかダヴィンチとかモネとか、そういう有名どころはなんとなく知っているくらいだ。質問する番組スタッフも私と同じくらいの知識レベルで、目線が近い。そこに山田五郎のちょっと舌たらずな、しかしわかりやすい解説と鋭い切れ味の作者へのツッコミが軽快に入る。西洋美術と聞くとなんとなく敷居が高そうだったが、お陰で気楽に「へえ〜!」となりながら、面白おかしく学ぶことができ、休日のお茶の良いお供だ。いつか物知り顔でふむふむと名画の鑑賞をしてやろうと密かに心に決めながら、その日を夢見てちょっとお高い紅茶をすすっている。

推し魚はフウセンウオ

[▶ 動画を見る](#)

